

飯豊山縦走 ～「飯豊愛」と「いい出会い」～

【報告者】T橋

【日時】2018年10月4～6日

【天候】晴れときどき曇り

【参加者】T橋

《コースタイム》

10/4 飯豊山荘 0530—宝珠山—飯豊本山 1100—(本山小屋)—御西小屋 1300 (泊)

10/5 御西小屋 0500—(大日岳)—梅花皮小屋 1000—門内小屋—頼母木山—杵差小屋 1430 (泊)

10/6 杵差小屋 0540—頼母木山—地神北峰 0800—飯豊山荘 1000

《 報 告 》

新潟空港から2時間。登山口手前に見つけたトイレのあるスペースでの車中泊。軽のレンタカーの後ろは狭く、自分サイズでも丸まるようにしか寝られない。久しぶりの遠征とあって緊張と興奮もあっただろう、夜中にたびたび起きては星を見ていた。

初日の登りダイグラ尾根は、豊本山に直接突き上げる標高差 1700m コースタイム 10 時間の点線ルート。長い先行きを思うと自然と足が速まり、結果後半はバテバテになる典型的なダメパターン。ただ思いのほか道はしっかり踏まれ、特に難所もなかった。1500m くらいからは樹林帯を抜け、紅葉まじりの稜線を目標に牛歩で進む。這い上がるようにたどり着いた高みが本山ピーク。360° さすがの大展望。水補給を兼ねて本山小屋に向かうと、登山客 2 名。「ダイグラから登ってきたでしょ。見てたよ」たぶんヨレヨレ登ってきた姿を見られている…。小屋番さんに教わった水場はとても冷たくて生き返る。このあとも各小屋の近くにそれぞれ水場が作られていて本当にありがたい。



【見下ろすダイグラ尾根】



【明るくなり始めた大日岳】

再び本山に戻ってよいよ主稜線歩きへ。苦しかったダイグラ尾根の紅葉が目立っている。稜線は山肌のナナカマドとハイマツの緑の組合せが目新しい。少しガスが出てきた中、ほぼ平坦な道のりで御西小屋。ピストン予定の飯豊最高峰大日岳はガスから時折顔を出しているが、足の疲れもあるので行動終了。小屋にザックをデポしていた年配の登山者も大日岳を登りたかったようだが、翌日からの天気を心配して残念そうに下って行った。夕方 17 時ごろに 1 名到着。

まだ小屋番さんは入っておらず、広い小屋にこの日は 2 名。

翌朝はガスが切れ、大日岳が薄明りにキレイに浮かび上がっている。眼下の雲海がものすごいボリューム。少しずつ日が上がり、照らされる紅葉を眺めながら大日岳に登る。南から上がってくるオンベ松尾根、ルートのない西からの尾根も形が見事。戻る途中で見覚えのある顔が。昨日下っていた年配の登山者だった。「天気が良くなったんで、登ってきちゃいました」いやいや昨日下りた小屋からは往復4時間くらいあるでしょ！それを照れた感じで話すところが可愛くみえてしまう。そして本当にこの山が好きなんだと思う。



【連なる稜線と山肌の紅葉】

天気も快晴で、山の紅葉から目を転じれば、新発田や中条市街そして日本海まで望める最高の山日和。歩くべき道が先にも、振り返る後ろにもずっと見えている、こういう歩きはなかなか経験がなかった。

やはりまだ小屋番のいない梅花皮小屋で小休止。目の前の北股岳のひと登りを終え、次の門内小屋ではじめて小屋番さんに会う。ここは高桑信一さんがひと夏の小屋番経験をエッセイにしている、自分はそれをきっかけに飯豊に興味をもった思い入れある場所。この

3連休を最後に小屋閉めの準備をしに上がってきた小屋番さんと、天気や見える尾根あちこちについて話をする。「ビールもあるよ」と言われ、まだここにいたい気持ちにちょっと本気で悩む。

アップダウンを繰り返しながらも標高は徐々に下がっていく。それでもピークを越えた先には、また別の鮮やかな紅葉が待っている。全山紅葉というわけではなく、ハイマツや笹などの緑に草紅葉も混じり、いろんな表情を見せて飽きさせない。

昼過ぎの頼母木小屋ではビールを買ってのんびりするのもいいな、と浮かれ気味で着いてみると、まだ小屋番さんが入っていない…。それでも小屋まで引かれた沢水でリフレッシュでき、気を取り直して縦走路北端の杵差岳に向かう。足にくる2度の登り返しを経て山頂直下の杵差小屋へ。ここも十分整った2階建て。水場はちょっとの標高差アルバイトをこなして湧水の小プール。小屋内に寝場所を作り(結局ひとりだったが)、5分ほどの山頂へ。小屋周辺では入らない DOCOMO が入るので、17時予報を待ちながら夕焼けに染まる山並みを見ていた。

翌日は杵差岳で日の出を眺めた後、稜線に戻り地神北峰より丸森尾根を下る。紅葉の樹林帯に入り、滑りそうなザレ場をいくつも下り、いつのまにか視界に緑が増えてくると、登山口の飯豊山荘前に出た。



【夕日に染まる杵差小屋】



【杵差岳からも紅葉尾根は続いている】

飯豊行くならおすすめ！書籍

・『山小屋からの贈りもの－飯豊連峰門内小屋』 / 高桑信一
情報サイト

・飯豊朝日連峰の登山者情報 <https://www.ic-net.or.jp/home/iide/>